

研修報告書

平成28年8月1日

講座名 : 法人研修「今、保育指針を学び直す—子どもの育ちと連続性を踏まえて—」
研修講師 : 日本女子体育大学幼児発達学専攻 准教授 天野 珠路氏
日時 : 平成28年7月30日(土)
会場 : TKPガーデン横浜

<感想>

保育指針の養護と教育は、子ども自身が環境を通してどうかかわり、どう自分を作っているのかを捉える目が必要であり、環境をどう構成するのかが保育者としてとても大事であることを聞き、あらためて環境構成の大切さを学ぶ。

年齢別の環境のスライドはとてもわかりやすく興味が持てた。何日もかけて作る。継続して取り組める環境は意欲につながりとてもいいなと感じた。また、教材を整えることも重要であると思った。

年齢の発達や特性に合わせ、子ども自身が主体となり活動ができる環境を整えることが大切であり、日々の保育の中で意識して環境構成していくようにしたい。

年間指導計画、月案、週案など様々な指導計画を作成している。環境構成をしっかりと書く必要があるというお話を伺い、子どもの発達の流れに見通しを持ち、十分に計画できていなかったと反省する。人、物、場が相互に関連し合える保育の環境を作りを大切に保育計画を立てたり、振り返ってフィールドバックできるように意識しながらやっていきたいと思う。

以上

研修 今、保育指針三学年直す - 子どもの育ちと学びの連続性を踏まえ

子どもの成長と環境によって変化する関係性

子供達にとって環境は 色や形物を見たり 開いたり、触ったり

嗅ったり、味わったり

五感を使って 自然に触れた時、季節感を味わう、身近な事像に関心を持つ

遊びに対するいく大切の時期。

又、自然の物の触り合を通して 感性、認識力、思考力を培う。小さい事から大きく発

展していく自然との関わりを深めていく子供同士の遊びが最も重要な事と感じます。

乳幼児期は唯一 何事も一通りではなく、自分のやりたいことを選択できる時期

人生で必要な力を養う時期だと感じました。

今回の研修で子どもの遊びについて 色々学べて勉強になりました。

「 今保育指針を学び直す—子供の育ちと学びの連続性を踏まえて — 」

天野 珠路 先生

保育所の保育指針、幼稚園の教育要領、子ども園の教育保育要項

それぞれが

「小学校以降の生活学習の基礎の育成につながることに 配慮または留意し幼児期にふさわしい生活を通して創造的な思考、主体的な生活態度を培うようにする」

という、同じ理念のもとに子どもたちに相対していること、また年齢に応じた環境を整えることの必要性を再度学びました。

保育所の責任として 子どもの人権の尊重、地域との交流と保護者への説明 そして、個人情報の扱い方の重要性を理解し、子どもたちの健康支援、事故防止 食育 保護者支援等の重責を担う保育士の一片のお手伝いができるように、気配り目配りをさらに心がけ「子供たちの為に…それが自分自身を育ててくれることになる。」という言葉をとともに、仕事に取り組む気持ちを新たにしました。

法人研修に参加して

保育士になってから改めてじっくりと 保育指針について考え方ぶことができました。

はじめに環境について お話や写真を見せていただいて、毎日の保育に流されてしまつて
いると反省。

環境設定について 園全体で取り組み話し合い 子どもたちにとってよりよい環境を設定
すると共に 私たち保育士自身も子どもたちにとってよい環境でありたいと 保育士にな
ったばかりのころ思っていた気持ちを忘れないでいたいと思いました。

幸い 境木保育園は、新しい園舎になるので 今までのよい環境を残しつつ 子どもたち
がわくわくしながら 登園し保育園の生活の中でいろいろなことを経験しながら、自分
の中に取り入れられるよう 設定 援助していきたいと思いました。

この研修に園全体で参加でき 学びを共有できることは、とても良いなと感じました。

7月30日(土)

石井伊香感想

今、保育指針を学び直す

— 子どもの育ちと遊びの連続性を踏まえて —

乳幼児期の室内環境、遊びの環境が一番大切だと
改めて思つた。まだ小さいから「ダメ、できない」と決めつけるのではなく
やられてたり、やらせて経験あることで「自信」になり、失敗しても「経験」となり
次につながっていく経験体験が「大切だ」と思つた。

現在 我が子の育ても様々な経験を生かし 大きく
丁寧にもらいたいと感じた。

また 集団生活の中、沢山の素材にも角出れ親のみ
自らが興味を持ち、その経験を生かして成長が出来る
環境を もとより細かく構成を立て 日々の保育に
生かせるよう 安全面に考慮して その遊びの自分で
育てる努力をしていきたいと願う。

研修報告書

平成28年8月4日

講座名 : 活動研修 今、保育指針を学び直す
研修講師 : 日本女子体育大学幼稚園専攻 天野 みづき 氏
日時 : H28.7.30 (土)
会場 : TEP 横浜ホール A

*研修で学んだこと

- 保育所の保育指針の総則の中にあわせて、保育所の役割は近年特に、家庭・地域との連携や、保護者支援が強調されていること。
- 保育指針の第3章 保育の内容(1つめ、(2)教育)に関する内容の中でも、①、②、③はそれぞれ①心情、②意欲、③態度について書かれていること。
- 日々の保育をしていく中で「大切にすることは何であるか」環境構成については計画を立てたら「3つのことは何」「どうも大切」ということ、(3つともかくではあるが)「どうか」ということは「3つあるからには何うまい」)

*感想・今後の職務に活かせる点

- 保育所の保育指針は幼稚園教諭資格試験と受験する時に読みこんでいる。今回改めて見直してみると、日々の書類や、週報、月のカリキュラム等で「どうも大切」と思っている。
- 講義のはじめに様々な園の保育環境の実践例を見て自分の担当しているクラス(=今後入り入れたいと思うもの)参考になつた。特に秋の季の実や、貝立て遊びなど、工夫して提供しているところと思う。
- 園舎建替えでより環境構成を整える絶好のチャンスと思つて、担任同士で相談してすこめていました。

7/30 (土) 石井修の感想

今回の石井修では特に“子どもを取りまく環境について”的お話しが一番心に残りました。

今1オ児を受け持つていますが、日々これでいいのか?と考えています。子どもの興味・関心・発達に合わせて頑具を変えているものの、なかなか遊びこめずにいる子を見ると、頑具だけではなく、子どもが落ち着いて遊べる室内環境になっているだろうか?と考えてしまいます。

縦に長い保育室で棚などをどう工夫して配置していくべきか。日々考えてますが、なかなか納得いく配置ができません。もっと子ども達が落ち着いて遊びこめる環境構成を職員間で話し合ってより良い保育ができるようにしてなければ、あらためて思いました。

また、乳児期の遊び（イメージ遊び）がいかに大切か、それが、幼児期に生むされるようになるのだなとあらためて矢張り気がひきしまる感じでした。

法人研修「今、保育指針と学び直す」

～子どもの育ちと学びの連続性を踏まえて～

講師 日本女子体育大学 幼児発達専攻

天野 珠路先生

感想

今回の研修ではまず環境構成の大切さについて改めて認識する事が出来ました。講師の先生が提示してくださいました写真から理想的に感じられる保育室を見てうらやましく思いました。0.1.2歳児でゆとりの感じられる広さの室内が子どもたちがじっくり遊び込める様に仕切られ工夫されれば良く過ごせるだろうと感じました。棚の上に飾られた花等も子どもの手からず、大人の手にもゆとりを持たせると感じます。また幼稚園クラスに至ってはアトリエ風に工夫されていて廢材のガムテープの芯や枝端が自由に取り出せる様にあり、また絵の具も棚の上に使いやすそうに並べられ子どもたちの活動意欲が高まる姿が想像出来ました。現在1歳児を担当していて特に月齢令の高いうちから取りに邪魔されずに好きな遊びを見つけて遊び込めるにはどうするべきか、が担当同士の課題です。工夫と努力が必要であると感じました。また「1.2歳の時に見立ておとひを沢山経験していると4.5歳見にいたる時の表現活動に繋る」との先生の言葉を聞いて乳児期の大切さを再認識しました。

後半での本題である「保育指針」については「保育戸籍、幼稚園、認定こども園」とそれそれのあり方として共通して言えるのが「心身の発達を図る(助長する)事を目的とする」と再認識しました。人生で一番発達する0~6歳という重要な時期に保育士として関わる事は大変貴重な事だと思います。一人一人の子どもたちがより良く生きていく為に子どもたちの目線に立て日々の保育にあたりたいと思います。

＜尚徳福祉会 法人研修＞

「今、保育指針を学び直す～子どもの育ちと遊びの連続性を踏まえて～」

＜感想＞

今回はたくさんの中の事例を紹介して頂き、自分の保育園の様子を思い浮べながら、すぐに保育に取り入れられる内容を学ぶことが出来ました。

子どもたちが自分のやりたいことを、自ら行う姿は、本当に真剣でいい表情をしていました。いつも、このような充実感たっぷりの顔を、保育園でしてもらえるよう、様々な素材、設定を保育士が考え、提供してあげなければいけないと思いました。

そしてこれが、将来社会を背負っていく大人になる為に、大切なことであり、私たち保育士は人間の中で一番重要な時期を、任されているという事を改めて実感しました。

私は直接保育に関わることは少ないですが、各クラスのカリキュラムを確認し、環境設定がきちんとできているか？環境設定に対して、反省はできているかを確認して、子どもの環境設定に関わっていけたらと思います。

また、事例をたくさん見た後に、改めて保育指針を学ぶことは、とても理解しやすく、さらに、環境の重要性を保育指針の中から読み取ることができたので、事例と保育指針の研修はとてもいい研修だったと感じました。

研修報告書

平成28年8月4日

講座名 今 保育指針と学び直す子供の育ちと学びの連続性を踏まえて
研修講師 元厚生労働省保育指導専門官 天野珠路先生
日時 平成28年7月30日
会場 TKPガーデンシティ横浜

<感想>

保育指針を振り返って学ぶ事により、保育園生活の中には、教育的配慮が
必要な事が多い事を実感しました。

昔、保育園という所は保育に欠ける子が通う所で、生活が主になっていた。

幼稚園の方は教育的な面ばかりではなく、遊びも見つかりました。

けれども今はそのような時代ではなく、幼稚園と同様に創造的な思考、
主体的な生活態度を育む事や、必要な事として学ぶ事です。

生きていく上では、力口乳幼児期の遊びの中で培われると言ひ得る、
遊びの中でもコミュニケーション能力を育む事などと感じさせられました。

遊びから想像力を育む精神的遊びが最も大事な経験があまり
知りませんでした。

遊びは保育園のまとめательは違うのですか……。

遊びは遊びの物の配置や置き場所、置き方につけて考え、子供達が使いやすくなる
ところを日々振り返り検討していくことが大切だと感じました。

ハーパーポイントで乳児室へ幼稚室との環境構成についての工夫を見事に
できました。これを参考になりました。

子どもたちが「明暗を絶えさせない」と思える環境構成の工夫を
試みたことを実感しました。

研修報告書

平成28年8月3日

講座名 : 今、保育指針を学び直す一子どもの育ちと学びの連続性を踏まえて
研修講師 : 天野 珠路先生
日時 : 平成28年9月30日
会場 : TKP カーデンシティ 横浜

*研修で学んだこと

*感想・今後の職務に活かせる点

保育で実践している例を、写真を用いて丁寧に説明して下さり、わかりやすかったです。

中でも、柑橘系を食べ比べ、その後子どもが言ったことを、先生が聞いて食べ物を比べたり、絵の具を使って色を表現したりと、食べ物と保育がつながった事例は、とても興味深かったです。

給食を作ることは、もちろんですが、“子どもたちの成長のためにできることは何か?”保育士の先生たちと一緒に考え、食を通して関わっていきたいと思いました。

平成28年7月30日

社会福祉法人尚徳福祉会 法人研修会

演題：「今、保育指針を学び直す－子どもの育ちと学びの連続性を踏まえて－」

講師：日本女子体育大学幼児発達学専攻 准教授

元厚生労働省保育指導専門官

天野 珠路先生

[講師略歴]

京都市生まれ 横浜・鎌倉育ち

和光大学人文学部人間関係学科卒業 玉川大学文学部教育学科卒業

(保育士資格 幼稚園教諭免許取得)

民間保育園、民間幼稚園、公立保育園で19年間保育者として勤めた後、横浜市保育課勤務
(保育士の研修、保育巡回指導等を担当)

平成16年4月 國學院大學幼稚教育専門学校に専任教員として勤務
(乳児保育、保育実践演習、保育実習などを担当)

平成19年4月～平成22年3月 厚生労働省保育指導専門官として勤務
(保育所保育指針の改定、幼稚園教育要領の改訂、保育所における自己評価ガイドラインの策定、保育士養成課程の改正などに携わる)

平成21年4月～10月 内閣府企画調査官兼任
平成22年4月より現職。

[主な共著書]

「保育原理」「保育者論」(中央法規2015)

「見る・考える・創りだす乳児保育」(萌文書林2014)

「3、4、5歳児の指導計画」(小学館2013)

「保育が織りなす豊かな世界－震災を経て生きる・遊ぶ・育ち合う」(ひかりのくに2012)

「保育の質を高める園評価の実践ガイド」(ぎょうせい2011)

「独自性を活かした保育課程に基づく指導計画・その実践・評価」(ミネルヴァ書房2010)

「新・保育所保育指針の展開－保育の真髄を伝える－」(明治図書2009) 等

○DVD 監修

「希望をささえる－『3.11その時、保育園は』続編」(岩波映像2013)

「3.11その時、保育園は－いのちをまもる・いのちをつなぐ－」(岩波映像2011)

「新保育所保育指針を映像に」(岩波映像2009)

○その他、委員・社会的活動

2006年4月～ 横浜市 子ども・子育て運営委員

2010年6月～2012年3月 文部科学省 幼児期の運動に関する指針策定委員

2013年4月～ 世田谷区 子ども・子育て会議 委員

〃 7月～ 京都市 子ども・子育て会議 委員 他

研修報告書

平成 28年 8月5日

講座名 : 「今、保育指針を学び直す - 子どもの育ちと学びの連続性を踏まえて」

研修講師 : 天野 珠路 先生

日時 : 平成28年7月30日(土)

会場 :

*研修で学んだこと 感想

○まず、今回の研修を通して、保育所保育指針を久しぶりに手にした。改定した時には、目を通したり、研修に行かせて貰くこともあったが、少しづつ本筋にあることが多くなっていった。あらためて読みと大切なことがたくさん書かれているのを再認識した。これからはもと指針に基づいて計画して保育していくか必须要だと思った。

また環境の大切さもあらためて感じた。保育士の専門性ということが強く言われているが、環境をいかに大事にし、構成していくのかを、その日の子どもの様子をしながら、作っていける保育士の元で育つ子ども達は そうでない保育士の元で育つ子どもに比べ、様々なことを学び力をつけていくので、前者になれるようにがんばりたい。年齢ごと、また、様々な環境のポイントを教えて貰ったので、基づいて構成していくにうれしく思ふ。

今の自分を振り返ると反省ばかりである。痛感して、

感想・今後の職務に活かせる点

研修報告書

平成28年 8月2日

講座名 : 今、保育指針を学び直す 一子供の育ちと学びの連続性を踏まえてー
研修講師 : 日本女子体育大学幼児発達学専攻 天野 珠路先生
日時 : 平成28年 7月30日(土) 15時00分~17時00分
会場 :

* 研修で学んだこと

各年齢における部屋の環境について~

乳児室～ 家庭的・温かな雰囲気・安心安全・応答的・5感を育む・探索活動・手先指先・木製布

1歳児～ 探索・やり取り・姿勢運動・指さし・身振り・手振り・見立て・自然物

2歳児～ 自分で自分で・意思欲求・運動機能・手先指先・象徴機能

幼児～ 比べる・話す・調べる・色形重さ・大きさ・認識力・思考力・感性

これらの内容を満たす、環境設定を考えていく。

幼児の興味を深める環境……環境・自然・動物植物・アート・不思議・おもしろい

幼児の表現活動のための活動

遊び=表現

豊かな感性

想像力

分類して分かりやすく配置し提示していく

創造力

構成力

表材教材

園庭の環境……自然環境・自然体験・起伏がある・運動遊び・生活の知恵・模倣

四季折々の環境構成……季節感・風物詩・暮らし・味わい

保育所保育指針の改定に伴い保育をめぐる役割を学ぶ。保育所・幼稚園・こども園での保育士の定義が違う。

* 感想・今後の職務に行かせる点

今回研修に参加し、保育所保育指針を再確認する機会が出来、保育所・幼稚園・こども園の目的や役割なども勉強する事が出来た。環境設定では子供達のせいにしないで今まで自分がしてきた環境構成を反省し今後の環境構成をしっかり考えていけなければならないと思う。

保育の専門性は環境構成に現れるため、具体例を豊富に持つことが必要。

保育の豊かさ・可能性を大事にしながら今後の保育に行かせていけたらと思います。

研修報告書

平成28年8月5日

講座名 : 今、保育指針を学び直す
研修講師: 日本女子体育幼児発達学専攻 天野 珠路先生
日時 : 平成28年7月30日(土)

研修内容:

—各年齢の保育室の環境作りについて—

乳児……家庭的・温かな雰囲気・安心安全・応答的・5感を育む・探索活動・手先指先・木製布
1歳児……探索・やり取り・姿勢運動・指さし・身振り・手振り・見立て・自然物
2歳児……自分で自分で・意思欲求・運動機能・手先指先・象徴機能
幼児……比べる・話す・調べる・色形重さ・大きさ・認識力・思考力・感性

興味を深める環境……環境・自然・動植物・アート・不思議・おもしろい
園庭の環境……自然環境・自然体験・起伏がある・運動遊び・模倣

今回天野先生の研修を聞いて、環境作りの大切さを知りました。
子ども達が家よりも長く時間過ごす保育園。その生活の場の環境を私たちが作ってあげることが
本当に大切だと思いました。
また、話だけでなく、いろいろな保育室の写真を見せてもらうことで、より分かりやすかったです。

廃材を、ただひとまとめに入れておくのではなく、分類しておくことで、子ども達の創作意欲や
感性を伸ばせるのだということも勉強になりました。少しの工夫次第で随分と違うんだな
と思いました。
子ども達が自分で考え、比べて、調べて、大きさや重さを量ったり……子どもの発想は本当に
おもしろいなあ、頭の固い大人にはおもいつかないなあ、と思いました。
そのためには、やっぱり環境作りが大切だと思いました。

日本のように四季があるのは珍しいので、その四季折々の季節感、風物詩、味わいを感じる事も、話を聞いて大事だと思いました。

保育指針の、保育所、幼稚園、こども園の役割や目的も再確認できました。

平成28年7月30日 13:00~15:00

社会福祉法人尚徳福祉会 法人研修会を終えて

「今保育指針を学ぶ直す—子どもの育ちと学びの連続性を踏まえて」

講師：日本女子体育大学幼児発達学専攻 准教授

天野 珠路先生

今の保育指針を 今回勉強させていただき、勉強になりました。

昔から幼保一体化といわれ続けていましたが、こども園에서도ますます大変になってきていると思いますが、目的は心身の発達を助長することも一致しているし、生活を通して創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うよりにすることが大事ということも一緒でした。

また、そのために保育は環境を通して環境と関わって子どもたちはどう学んでいくのかを観察する目が大事ということも学びました。

環境はすべての教材であり、そのためには乳児室の環境から幼児室の環境を考えると、自然物や子どもたちが手がけたものを構成し、心情、意欲をはぐくことが大事であるといふことも学びました。

境内保育園は、自然環境に恵まれているので、乳児には競志、欲求など叫うようにしてあげたいし、幼児には感じを高める環境を作り出したいと思いました。ただ園では、部屋が狭いのでコーナーを作るのがなかなか難しいと思いますが、新しい園で、できるといふと思います。

また、コーナーに関してはたくさんの写真を見せていただきとても勉強になりました。

保育士の仕事として専門的知識、技術、判断していくところに、もっと勉強いはければと思いました。

たくさんのお話をありがとうございました。

7月30日 法人研修 <今、保育指針を学び直す>

幼、保の一体化、認定こども園によって保育指針の目的とする所や生活を通して学ぶ場である事は幼稚園と同じで、大切な部分を改めて確認できました。

保育の専門施設として環境を十分に整え、保育のねらいを考えて現場に立てる保育士にならないといけないと感じました。

また、保育室の環境やおもちゃや、道具など実際の写真と一緒にお話しをしてくださったので、イメージもわき、取り入れたいと思う事がいくつもありました。2歳児の意欲や欲求、手先、指先など年齢に応じた物を準備してあげられるたりいいなと感じたし、「挑戦したい」気持ちを叶させてあげる環境、というのを作りたいと思いました。オリニピックなどのその時ならではの物もさりげなく保育に取り入れて色々な体験、経験ができるようになっていきたいです。視覚、聴覚、嗅覚を使う事ができる遊びを具体的に考えていくたいと思いました。